

Artists of Mishima

三島ゆかりの芸術家たち

三島市制65周年記念
三島市郷土資料館開館35周年記念

2006.11.3(金)→2007.1.28(日)



「裸婦」細井繁誠



「ヴェニスのごンドラ」栗原忠二



「メリーさん」野口三四郎

ごあいさつ

三島市は昭和16年の市制施行から今年で65年を迎えます。また、三島市郷土資料館は昭和46年10月5日の開館以来、三島の文化に関わる企画展を毎年開催してきましたが、今年でちょうど35年を迎えます。

今回は三島市の所蔵する芸術作品の中から、郷土を代表する7人の芸術家とその作品を紹介します。また特別展示として、昭和35年の三島市役所新庁舎落成記念に寄贈された絵画を併せて展示紹介します。

一ギャラリートーク

館職員による展示解説を行います。

日時：平成18年11月4日(土) 13:00～
平成18年11月23日(木) 13:00～

申し込み不要。直接会場へお越しください。

- 会場 三島市郷土資料館1階展示室
- 開館時間 9:00～16:30
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
12月27日から1月2日
(11/6及び11/13は臨時開館)
- 入館料 無料(ただし楽寿園入園は有料)

くりはら ちゅうじ
栗原 忠二 (1886~1936)

Artists of Mishima



英国風景



月島の月

栗原忠二は、明治19年（1887）久保町（現・三島市中央町）の旧家に、栗原宇兵衛の次男として生まれました。

ロマン主義のイギリス人画家ターナーの作風に傾倒し、葦山中学（現・県立葦山高校）時代から水彩画を描くようになります。東京美術学校（現・東京芸術大学）在学中の明治42年（1909）に「月島の月」が第12回白馬会展はくばかいで東京朝日新聞の好評を得ました。

大学卒業後、イギリスに留学、水彩画を研究し数多くの風景画を描いています。12年間の滞在後、大正13年（1924）に帰国して、個展を開催し大きな反響を呼びました。

再び渡英しますが、長い異国での生活の中で次第に「日本人らしい絵を描きたい」と思うようになり、昭和2年（1927）に再帰国。その後は、東京荻窪にアトリエを新築し、移住しました。以後、制作活動に没頭し、多くの展覧会に作品を出品しています。(M)



Artists of Mishima

しもだ しゅんどう
下田 舜堂 (1899~1989) [本名 下田照太郎]



下田舜堂は、明治32年（1899）に神奈川県で生まれました。大正2年（1913）に沼津中学（現・県立沼津東高校）へ入学しますが、父親の希望をよそに絵の道に進み、大正9年（1920）東京美術学校（現・東京芸術大学）日本画本科に3番の成績で入学し、日本画を学びます。卒業後の昭和3年（1928）には、第10回帝国美術院展（帝展）に入選しました。

しかし、戦争が激しさを増し、空襲で家が焼かれてしまいます。更に日本の敗戦ということもあり、三島に帰ることになりました。

その後は、三島市を中心に美術界での活動を続けています。第1回静岡県美術展に出品し、最高位の知事賞を受賞。沼津精華高校（現・沼津中央高校）で教鞭をとりながら、沼津市や三島市の美術展の審査員、静岡県美術展の審査員を務めました。また、三島の佐野美術館の館長にも迎えられなど、文化活動に大きく貢献しました。(M)



小浜池



朝焼けの富士



たかなし しょうせい
高梨 勝瀨 (1904~1987) [本名 高梨榮作]

高梨勝瀨は、明治37年（1904）田方郡田中村（現・伊豆の国市）に生まれます。昭和4年（1929）に京都絵画専門学校（現・京都芸術大学）を卒業後、台湾に渡ります。台湾では1932年の第6回台湾美術展覧会を皮切りにほぼ毎年のように美術展へ出品、なかでも1936年に出品した「竹林田家」は特選となり、台湾総督府に買い上げられます。これにより翌年の美術展では無鑑査となり、台湾美術奉公会幹事長も務めます。

終戦により帰国しますが、昭和23年（1948）からは三島第一高校（現・県立三島北高校）の教員を勤め、昭和40年（1965）に「摩周湖」で静岡県芸術祭賞を受賞します。また三島市美術展の審査員も務めます。なお、現在の三島北高校の校章は高梨氏のデザインにより昭和26年（1951）に制定されたものです。(S)



風景



春

ほそい はんせい
細井 繁誠 (1905~1977)

Artists of Mishima

細井繁誠は、明治38年（1905）三ツ谷（現・三島市三ツ谷）に生まれます。葦山中学（現・県立葦山高校）に入学しますが、先生の勧めにより磐田の中泉農学校（現・県立磐田農業高校）に転校し学びます。高校を卒業後、磐田に住んでいた洋画家・和田三造^{わたさんぞう}に弟子入りし、大正15年（1926）第8回帝国美術院展（帝展）に「路地」で初入選、以降入選を重ね無鑑査となります。昭和9年頃三島へ戻り、杉本英一らと絵画グループ「十日会」を設立。昭和32年（1957）に「新協美術会」

を創立。また三島美術展の審査員を務めるなど、三島の芸術振興に尽力します。昭和47年（1972）には三ツ谷から見た三島市街の夜景を描いた「暮色」で文部大臣奨励賞を受賞。その後も「月と芋畑」など新作を描き続けますが、昭和52年7月9日、72歳の生涯を閉じます。(S)



下田港



月と芋畑

すぎもと えいち
杉本 英一 (1910~1982)

Artists of Mishima



杉本英一は、明治43年（1910）、山田（現・三島市川原ヶ谷）の農家に生まれました。幼い頃から絵画が好きで、昭和4年（1929）に市ヶ原の伊豆相互貯蓄銀行（現・静岡銀行三島支店）に勤めてからも、同人雑誌の表紙の絵を担当していました。

かしわざしゅんいち
 柏木俊一の弟子でもあり、昭和6年（1931）には「真鶴港」が第6回

国画会展（国展）に初入選。同年に銀行を辞め、沼津桃中軒ビル階下に絵画材料店を営みながら制作を続けます。その頃から国展で度々入選するようになりました。

昭和12年（1937）には日中戦争のため召集を受けますが、昭和14年（1939）には現地除隊となり、上海で絵画制作を復活。昭和21年（1946）に帰国後、山田の自宅内にアトリエを建て、本格的に画業に取り組みました。昭和26年（1951）には、その年から開催された三島市美術展の審査員に推され、活躍しました。(M)



風景



絵画教室

Artists of Mishi-

せりざわ しんご
芹沢 晋吾 (1928~1978)



芹沢晋吾は、昭和3年（1928）かや茅町（現・三島市加屋町）に生まれました。三島商業高校（現・県立三島南高校）へ入学すると同時に美術部に入りますが、当時からその画才は注目されました。昭和26年（1951）に自由美術協会展に入選。同年には三島市の第1回美術展（新日本劇場）へ

裸婦の大作を出品します。昭和29年（1954）には二科展入選。以後、数々の展覧会で入選を重ね、昭和37年（1962）には汎太平洋国際青年画家展に日本代表で入選を果たします。

その後、新宿紀伊国屋画廊などで個展を開き、昭和47年（1972）にはスペイン・ポルトガルへ外遊。帰国後は「滞スペイン展」と銘打った個展を開催します。この間、三島市美術展の審査員も務め、三島の芸術振興に寄与しました。人の生きる苦しさを描いたといわれる作風は人々の間で高い評価を得ましたが、昭和53年（1978）、49歳の若さで生涯を閉じることとなりました。(S)



農夫



屠殺者



野口三四郎は、明治34年（1901）、大中島（現・三島市本町）の旧家（質屋）の次男として生まれました。大正3年、葦山中学校（現・県立葦山高校）へ入学します。その後、大正ロマンの影響を強く受ける中で写真師を目指し、昭和3年（1928）には東京三越デパートの早撮り写真の機械技師となります。翌昭和4年、京城（現在の韓国ソウル）で開催された「朝鮮博覧会」へ写真技師として派遣され、この体験が人生を大きく変える契機となります。帰国後は人形作家・鹿児島寿蔵、堀柳女らとの出会いにより、次第に人形作家として活動するようになりました。しかし、昭和12年（1937）

2月、35歳（数え年37歳）の若さで亡くなります。人形作家としての活躍は僅か5~6年の短期間でしたが、昭和11年（1936）6月に三島の水辺をモチーフにした「水辺興談」（写真右）で創作人形界の最高賞「人形芸術院賞」を受賞します。（W）



人形芸術院賞受賞作「水辺興談」（個人蔵）

◆ みよる 三四郎人形 ◆

野口三四郎の制作した人形を「三四郎人形」と呼んでいます。作者本人の名前三四郎から命名しました。三四郎人形の特徴は、張子で作られているためとても軽く、素朴な作風です。張子という大量生産できる技法にも関わらず、芸術作品として三四郎人形をとらえていたため、ほとんどの作品が1~2点しか制作されていません。そばにそっと置いておき、眺めると心まで和む人情味溢れる人形です。



「影ふみ」（個人蔵）

張子の軽さがもっとも活かされている作品が「影ふみ」（写真左）です。日が落ちかけた夕方、3人の少女が影ふみで遊んでいます。2人の少女が走る様子をそのまま台座の上に表現していますが、驚くことに少女のつま先しか台座には固定されていません。僅かの固定で支えられるのは張子の軽さがなければできないことです。

また、三四郎は朝鮮博覧会場で写真技師として働く傍ら、会場の展示風景や催しの様子、京城（ソウル）市内の繁華街や名所とそこに生きる人々を水彩画に残しています。更に博覧会後に朝鮮半島を旅した時にスケッチを重ねたものが100枚程残っています。官妓の踊りのような連続した一連の動作を素早いタッチで1枚の画用紙に動画のように描いており、（写真右）人物の一瞬の表情・動きを巧みに捉えていることがわかります。これらが人形制作においても存分に活かされているといえます。（W）



「朝博演芸館二於ケル朝鮮舞」（個人蔵）

新庁舎を彩った 画家たち

昭和35年(1960)三島市役所新庁舎落成

昭和16年に三島市制が施行されましたが、昭和35年10月1日、行政サービスの充実と三島市の発展を願い、市制20周年を機に新しい庁舎(現市庁舎)が落成しました。この庁舎落成を記念して市内外から三島市に絵画が寄贈され、新庁舎を彩りました。

現在三島市役所の庁舎内には柏木俊一「南豆白浜風景」他6枚の寄贈された絵画が飾られており、私たちに安らぎと心の豊かさを与えてくれます。(W)



「南豆白浜風景」

● ^{かしわぎ} 柏木 ^{しゅんいち} 俊一(1894~1971)

明治27年(1894)現在の伊豆の国市(韮山)の名家に生まれる。明治45年韮山中学(現・県立韮山高校)卒業と同時に上京、本郷洋画研究所に入る。梅原龍三郎に師事。近藤浩一路、中川一政、岸田劉生らと交友。昭和8年国画家会会員、昭和37年国画家会客員となる。



「高原の秋 浅間山」

● ^{たかもり} 高森 ^{かつぞう} 捷三(1908~1977)

明治41年石川県輪島に生まれる。のち北海道で少年時代を過ごす。大正14年上京。林重義に師事。昭和元年二科会展に初入選。



「外房風景」

● ^{やまでら} 山寺 ^{しげこ} 重子(1932~)

昭和7年横浜市に生まれる。国画賞、シェル賞他多数受賞。国内外で個展。現在、国画家会会員・女流画協会委員・埼玉県近代美術館CAF評議委員。



「静物」

● ^{ふじの} 藤野 ^{かいち} 嘉市

静岡県浜松市に生まれる。浜松師範学校卒業。日展入選多数。静岡県芸術祭企画委員・実行委員・昭和47年度油絵審査員を歴任。一水会会員。



「バラ」

● ^{えとう} 江藤 ^{てつ} 哲(1909~1991)

明治42年大分県国見町に生まれる。昭和6年東京高等工芸学校卒業、8年熊岡絵画道場に学ぶ。24歳の時に作品「人物」で帝展に初入選。昭和55年日展で「静物」が内閣総理大臣賞。



「生花」

● ^{きたむら} 北村 ^{あさむ} 脩(1922~2004)

石川県に生まれる。帝国美術学校(現・武蔵野美術大学)卒業。洋画家宮本三郎に師事。二紀展受賞。一創会創立代表を務める。



「竹」

● ^{まつら} 松浦 ^{みつる} 満(1908~1998)

島根県都万村に生まれる。松林桂月の門に入り日本画を修行。帝展・新文展に入選、昭和22・26年日展特選。日展会員。

※開催期間中、一部展示替えを行います。 ※本稿中の解説については、鈴木隆幸(S)、渡邊美幸(W)、政木愛子(M)(いずれも当館学芸員)が執筆担当し、文末にイニシャルを付しました。

【参考文献】

【特別展 栗原忠二展】(浜松市美術館 佐野美術館)【静岡の美術Ⅳ 栗原忠二展 英国にかけける橋】(静岡県立美術館)【下田舜堂展】(下田舜堂展世話人会)【豆州駿州人国記一その人と風土一】(沼津 豆州かわら版)【美術年鑑1974】【美術年鑑2006】(美術年鑑社)【美術家名鑑1965】(美術倶楽部)【20世紀物故洋画家事典】(美術年鑑社)【柏木俊一展】(佐野美術館)【静岡県芸術祭20年のあゆみ】(静岡県教育委員会)【伊豆の洋画家 細井繁誠】(佐野美術館)【三島高女北高百年史】(三島北高校)【西嶺映ゆ 創立80周年記念誌】(三島南高校)【三島市誌】(三島市)【ふるさとの画家とその作品展】(三島市郷土資料館)

■三島市郷土資料館 〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内

■発行日 平成18年11月3日 TEL055-971-8228 FAX055-981-3730 <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>